

平成20年度質の高い大学教育推進プログラム審査結果表【選定】

機 関 名	同志社女子大学				
取 組 名 称	一年間の留学を基軸にした高度総合英語教育				
取組学部等	学芸学部国際教養学科				
申 請 区 分	教育課程の工夫改善を主とする取組				
整 理 番 号	A11177	申 請 の 形 態	単 独	取 組 期 間	3 年
申 請 の 分 類	外国語				
キ ー ワ ー ド	留学, リベラル・アーツ教育, 日本語・英語両言語, 論理的コミュニケーション能力, 批判的思考				

<選定理由>

本取組は、同志社女子大学学芸学部国際教養学科の教育目標である「国際感覚を持った教養ある女性」の育成を実現するため、一年間の全員留学をカリキュラムに組み込む試みで、グローバル化が急速に進む中で求められている人材の社会的要請にも応えたものとなっている。そして、英語教育プログラムを通して日本語・英語両言語で批判的かつ論理的コミュニケーション能力を育成する様々な創意工夫がなされている。

取組にあたっては全学的なバックアップのもと、学部・学科としてプログラムを遂行する体制が整っている。また、成績評価において、学生一人一人の個別カルテを作成し、学生にフィードバックしているなど、成績評価にも工夫が見られ、他の大学の参考になり得る優れた事例であると言える。

また、この取組みには、留学期間中の質保証という課題も認められるが、これを克服すればさらなる発展が期待される。

取組の概要【1 ページ以内】

同志社女子大学学芸学部国際教養学科は、創立 130 周年を機に、本学の理念であるキリスト教主義教育、国際主義教育、リベラル・アーツ教育の中の国際主義教育とリベラル・アーツ教育を充実させるために平成 19(2007)年 4 月に設立された。本学科の教育目標を端的に述べるならば、「国際感覚を持った教養ある女性」の育成である。その目標を実現するため、本取組では一年間の留学をカリキュラムに位置づけた全員留学をめざす英語教育プログラムを通して日本語・英語両言語で批判的かつ論理的コミュニケーション能力を育成する。

国際化が進展し、さまざまな人々が交流する社会にあつては、常に種々の問題に対して批判的に捉え、世界の状況を知った上で、日本にとってどのような解決策があるのかを考え、その解決策を論理的に日本語・英語両言語で表現できるコミュニケーション能力を持った女性の育成が急務である。本取組では、留学を通して、単に英語のコミュニケーション能力を伸ばすのではなく、母国のことを理解した上で外国のことを理解し、常に他国と母国の複数の視点を持って、日本語・英語両言語で論理的に説得できるコミュニケーション能力を持った女性の育成を目指している。

本取組の特徴は、以下の 3 点に集約できる。

- (1)ほとんどの授業を英語で行い、きめ細かな指導体制によって英語力を向上させる。
- (2)批判的思考、国際的に通じる論理的な表現力、スタディ・スキル(study skills)を育成する。
- (3)教職員が協力して、留学前及び留学中の生活と学習を支援する。

英語を使って国際舞台で活躍できるようにするためには、高校までの英語の基礎の上に立って、短期間の集中訓練、留学中と留学後の英語を学問として実際に使う体験が必要である。そのために学生一人ひとりを大切に、教員同士が連携しながら、共通の目標に向かって、きめ細かい指導体制が必要である。また、ほとんどの科目は英語で行われるばかりでなく、「スキル科目」、「国際教養科目」、「演習科目」が相互に有機的に関連付ける必要がある。第二に、国際的に通じる論理的な表現力の育成のためには、英語だけでは不十分で、母語による明解な表現技術の習得と日本および海外の大学で必要となるスタディ・スキル(study skills)が必要である。また、日本語で物事を批判的に捉える批判的思考(critical thinking)の訓練も必要である。第三に、留学前には自己を知り、同志社の歴史も含めて日本の歴史全般を学習させ、危機管理の指導を十分にしながら、研究方法・発表方法を学ばせ、各自のテーマを持って留学させる。留学中は、最新のテクノロジーを駆使し、学生の生活と学習の支援を職員にのみに任せるのではなく、教員が深く関わることに特長がある。また、留学前と後では、各自のテーマに関する発表会(ポスターセッション)や国際シンポジウムを実施し、日本語・英語両言語による論理的コミュニケーション能力を育成する。

このように本取組は、留学を本学のカリキュラムの中に位置づけ、留学前と留学中の学習の目標を明確に設定し、全員が留学の目標を到達できるように授業科目を有機的に関連させ、きめ細かな支援体制をとっているところに特長がある。しかも、教職員が学生一人ひとりを把握し、さまざまな指導上の工夫を通して、きめ細かく指導していく点に特長がある。成績管理の厳密さに加えて、留学中の単位に関しては、正規科目しか本学の科目に読み替えることはできない。そのような厳しさの中で本取組は、学生一人ひとりを大切に、学生の父母との連絡をとりながら教職員が共通の目標を共有し、かつ行動する新しい形の大学教育の実践である。